

## 加工用ホウレンソウの低コスト生産

食の多様化と外食化が進行し、それに伴って安価な冷凍ホウレンソウの輸入が増加しています。一方で輸入野菜への不安感から国産ホウレンソウに対する要望も高まっています。

このような声に応えるため、機械化と多収栽培を組み合わせた低コストな加工用ホウレンソウの生産体系を開発しました。開発した生産体系では、作業時間は従来の2割以下、単収は約2倍となり、95a以上を作付けすれば、1kg100円の売り渡し価格でも利益を確保できることがわかりました。

### 低コスト機械化体系



マルチ栽培



生食用(左)と加工用ホウレンソウ(右)

施肥・播種同時作業機の利用により、施肥・ベッド成形・播種・粒剤散布・マルチングが1台・1工程で実施でき、作業時間は慣行の3分の2に削減できました。秋冬まきの品種は、多収で草姿が立性の「クロノス」、「トラッド7」が適しています。

栽培は黒マルチ栽培とし、1穴当たりの播種粒数は3～4粒とします。

### 刈り取り収穫機による収穫作業



雑草は、「異物」として、品質を落とすので、除草剤等により防除します。

収穫時の草丈は、生食用（約25cm）よりも大きくても良いため、単収を約2倍にできます。

刈り取り高さは、草丈40～50cmで、ベッド上から5～8cmを目安に行います。

### トラックによるコンテナ回収・出荷



### 追従運搬車によるコンテナの搬出入



機械による収穫は、追従運搬車を利用してコンテナで行います。4人の組み作業となります。